

ギフト目的に合わせた観葉植物

「花言葉」と聞くと、花を咲かせる植物に付けられているイメージがありませんか？
実は、きれいな緑色の葉っぱが癒やしを与えてくれる観葉植物には、様々な花言葉があるんですよ。

花言葉を知っていると、プレゼントシーンに合った観葉植物が選べるかもしれません。
今回は、観葉植物の中でもステキな花言葉を持つ種類をどんなときのプレゼントに適しているかと合せてご紹介します。



■新築、転居祝いにおすすめの花言葉を持つ観葉植物

テーブルヤシ

花言葉：『あなたを見守る』

名前の通り、卓上サイズのヤシの木であるテーブルヤシ。「あなたを見守る」という花言葉は、新しい場所で生活する人々を守ってくれるような頼もしさがありますね。スペースをとらず、**丈夫で育てやすい**ことに加えて、有害物質を吸着して空気をきれいにしてくれる「空気清浄効果」があるのもうれしいポイント。日当たりのよい窓辺やテーブルの上に飾るのがおすすめです。



育て方

テーブルヤシとは、ヤシ科に属する小型の品種です。1つの茎に細長い葉っぱがいくつも連なって羽を広げたいような見た目になります。テーブルヤシは名前の通り卓上サイズ。**ある程度の日差しが当たれば**どこでも育てることができるので、比較的育てやすい観葉植物です。

置き場

テーブルヤシは日差しがある程度当たる場所であればどこに飾っても育ちます。直射日光を好みそうですが、真夏の強い日差しに当たると葉っぱが枯れてしまいます。リビングやダイニングテーブルの上、玄関など目に留まるような場所に飾るのがおすすめです。ただし、葉っぱの色が悪くなったり害虫がついたりしたときは、明かりが不足しているサインです。少し明るい場所に移動してあげましょう。

水やり

湿度の高い環境を好みます。よく生長する4～10月は、土の表面が白っぽく乾いてきたら**たっぷり**と水を与えましょう。同時にテーブルヤシ全体へ霧吹きで水を吹きかけると、葉っぱの色ツヤがよくなります。成長が穏やかになる**11～3月は乾かし気味**に！土の表面が乾いて2～3日たってから水やりをするくらいでかまいません。

テーブルヤシの剪定はNG?大きくなったテーブルヤシは株分けしよう

ヤシ科の植物は一度切ってしまった茎から新しい葉っぱが生えません。切り落とすと、そのまま茎は枯れてしまいます。そのため、茎や葉っぱを切りそろえる「剪定(せんてい)」は必要ありません。サイズを調節したいときは、植え替えのときに根ごと茎をいくつかに分割し、ボリュームを減らしましょう。

オリーブ

花言葉：『平和』『勝利』『知恵』『安らぎ』

オリーブは、しなやかに枝を生やす姿が魅力の観葉植物です。その美しい銀色がかった葉っぱから、観葉植物の中でも人気はトップクラス。1本インテリアに加えるだけで、地中海の乾いた風や青い海がイメージされます。また、「平和」という花言葉から、新生活を応援する気持ちが伝えられそうですね。雰囲気をも強めたいなら、相性のよいテラコッタ鉢や白い陶器鉢がおすすめです。



育て方

オリーブの木は丈夫な観葉植物で、日々のお手入れも簡単です。1年で数10cmも枝を伸ばす成長スピードの速い樹木です。3～4月には、枝を切りそろえて管理できるサイズに整えましょう。オリーブの木に適した土は、水はけ、水もちのよさが大切です。この条件さえ満たせば、土はあまり選ばなくて大丈夫でしょう。アルカリ性を好むため、川砂などがブレンドされた水はけの良い土がおすすめです。

置き場

「日当たりのよい、あたたかい場所に置くこと」がオリーブの木を室内で育てるコツです。日光に当たらないと、細く弱い木に育つので日が入りやすい窓の近くに置きましょう。ただ、冬は窓から冷たい空気が伝わり、木を弱らせる恐れがあります。気温が下がってきたら、普段よりも少しお部屋の内側へ鉢を移動してあげると安心です。

水やり

オリーブの木の原産である地中海沿岸は、乾燥した地域です。**室内で育てるときも、「土の表面が白っぽく乾いたら鉢の底から流れ出るくらい水を与える」が水やりの基本。**原産地に近い環境を作っていきましょう。毎日水やりをすると、湿度が上がって根が腐って枯れるので注意してください。

オリーブの木に実はなるの？

残念なことに、オリーブの木をただ育てているだけでは実をつけません。**オリーブの木は、別の品種の花粉でないと受粉しないという特徴があります。**実を見てみたいという方は、今育てているオリーブの木とは違う品種を購入し、近くに置いてみるとよいですよ。

■新築、転居祝いにおすすめの花言葉を持つ観葉植物

ポトス

花言葉：『永遠の富』『華やかな明るさ』

ポトスは、「華やかな明るさ」という花言葉の通り緑色の葉っぱがお部屋を明るい雰囲気にしてくれる観葉植物です。丈夫で乾燥や日陰に強く、水やりの手間がかからないところが初心者でも育てやすいと人気です。



育て方

ポトスは熱帯地域原産のツル性観葉植物で、定番の観葉植物です。日本では葉が小さくハンギング用の鉢に植えられていることが多いですが、ヘゴ棒などで上へ向かうように仕立てると葉が大きくなりモンステラのような切れ込みが入るようになります。逆に、ポトスを下垂させるようにすると葉は小さくなりよく見かける形状のものになります。

置き場

ポトスは窓辺など明るく風通しの良い場所に置きます。育てているうちに徒長をしてくるようであれば屋外栽培に切り替えましょう。また、エアコンの風などが直接当たってしまうと枯れることがある為、エアコンの風が当たらない風通しと日当たりの良い場所に置きましょう。**ポトスは寒さに弱いので冬越しに注意しましょう。**

水やり

ポトスが生長している間は土の表面が乾燥したら、鉢底から水が流れ出る位たっぷりと水やりをするようにします。気温が低い冬など、ポトスの生長が止まったら水やりを控え、一週間に1~2回程度水やりをするようにしましょう。また、葉水を定期的に行うことでハダニなどの発生を予防することができます。葉裏にもしっかりと水をかけましょう。

増やし方

ポトスは切り戻した蔓を一部切り取って挿し木にすれば簡単に増やせます。葉を2枚か3枚残して、川砂などに挿しましょう。水挿しにしても発根します。水挿しの場合、水に挿しておくで発根しどんどん増えていきます。水はできるだけ毎日交換し、きれいにしましょう。

■友人へのプレゼント

コーヒーの木

花言葉：『一緒に休みましょう』

コーヒーは、その深い苦味とほどよい酸味がほっと一息つかせてくれる飲み物ですよね。

そんなコーヒーの豆を付けるコーヒーの木は観葉植物としても親しまれています。

コーヒーの木らしい「一緒に休みましょう」という

花言葉も、気の置けない友人へのプレゼントにピッタリですよ。



育て方

熱帯地域が原産の**コーヒーの木は、寒さが大の苦手。**

冬になったら、あたたかい場所に鉢を移動しましょう。

窓から伝わる外気は、葉っぱを枯れさせてしまいます。

窓からは距離を取るようにお部屋の内側においてください。

また、鉢ごとすっぽりダンボールで覆うのも夜間の防寒対策に効果的です。

置き場

コーヒーの木を室内に飾るときは、直射日光の当たらない場所を選ぶのが長く楽しむコツです。

強い日差しに当たると葉っぱが焼けて枯れます。

窓辺に置く時は、レースのカーテンやブラインドごしにしてあげましょう。

多少、日光が当たらない場所でも元気に育つので窓の多いリビングに置くのがおすすめですよ。

水やり

春～秋は鉢の土が乾いたら底穴から流れ出るくらい、たっぷり水やりをします。

葉っぱの先端や新しい芽がしおれていたら、水不足のサインなので注意してください。

一方、冬は鉢の土が乾いて、さらに数日おいてから水やりをするくらい乾燥気味に管理します。

花が咲いたら

上手に育てて株が1mを超すくらいの大きさに成長すると、花が咲くようになります。

白い花はさわやかな芳香があって素朴な美しさがあり、そのままにしておけば実がなるのも期待できます。

ストレリチア

花言葉：『輝かしい未来』『寛容』『恋の伊達者』『気取った恋』

鳥が飛んでいるような姿の花を咲かせることから、

「極楽鳥花」という別名が付いたストレリチア。

切り花としては高貴な花として扱われ、「輝かしい未来」という花言葉から、これから何かにチャレンジする友人へのプレゼントにピッタリ。

うちわのような形をした葉っぱがトロピカルな印象で、スタイリッシュなお部屋づくりに活躍してくれます。



育て方

ストレリチアは室内の窓辺に飾って育てます。

南アフリカのあたたかい地域が原産で、直射日光が大好きです。日光不足だと新しい葉っぱが生えなくなるので注意してください。

また、**寒さにも強く、2～3度の気温が保てる場所なら問題なく冬を越せます。**

存在感があるので、リビングや光のよく入る玄関など、目に留まる場所が似合いますよ。

置き場

ストレリチアは室内の窓辺に飾って育てます。

南アフリカが原産で、直射日光が大好きです。日光不足だと新しい葉っぱが生えなくなるので注意してください。

また、**寒さにも強く、2～3度の気温が保てる場所なら問題なく冬を越せます。**

存在感があるので、リビングや光のよく入る玄関など目に留まる場所が似合いますよ。

水やり

ストレリチアの根は水を貯められる構造になっており、乾燥に強いです。よく生長する4～10月は、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。水不足になると、葉っぱの先が黄色く枯れるので注意してくださいね。

一方、冬は土の表面が乾いて1～2日おいて水やりをしてください。「葉水（はみず）」をすると、色ツヤが保てます。

ストレリチアとオーガスタ

市場ではストレリチア・レギネと、ストレリチア・ニコライという種類が出回っています。

切花のストレリチアは、Strelitzia reginae（ストレリチア・レギネ）という種類。

観葉植物でメジャーな「オーガスタ」は、Strelitzia nicolai（ストレリチア・ニコライ）の方。

ニコライはレギネより大型になる種類で、鉢植えのサイズではなかなか花をつけることはないそうです。

■友人へのプレゼント

ガジュマル

花言葉：『健康』

ガジュマルは、「多幸の木」という別名も広く知られる縁起のよい観葉植物です。気根と呼ばれる根を生やし、株元がぶっくりとした姿が印象的なことから、ちょっと変わったインテリアプランツを探している人にピッタリ。また、「健康」という花言葉の通り、**生育旺盛で育てやすい**ことから、はじめてでも安心して栽培できますよ。



育て方

日本やインド、オーストラリアに生息する常緑樹です。「気根（きこん）」と呼ばれる地上に出てきた根を他の植物からみつけながら体を支え、自然界に生えているものは20mほどとかなり大きいものもあります。丈夫な樹木なので日陰に置いても育ちはしますが、日照が急激に不足したりすると緑色のまま葉が落ち、丸坊主のような姿になってしまうこともあります。

水やり

水やりの基本は「土が乾いたらたっぷりと与える」です。ただし、生育サイクルに合わせて水やりの頻度を変えましょう。ガジュマルは春～秋にかけてよく育ち、冬になると生長がほぼとまります。春～夏は1日に1～2回を目安に水やりをし、気温が下がってきたら徐々に水やりのペースを落として、冬は土が完全に乾いてから数日後に水やりをするといでしょう。

冬越しのコツ

冬になったら、ガジュマルの木は室内のあたたかい場所へうつして育てます。**暖かい地域に育つ樹木なので気温が5度以下の場所では葉っぱが黄ばんで枯れ落ちます。冷たい風や霜に当てても弱るので夜は窓辺に置かないよう注意しましょう。**日当たりが心配なときは、日中のあたたかい時間だけベランダに出すなど工夫するのが、冬を過ごすコツです。

置き場

ガジュマルはたくさんの日光を浴びて育つ観葉植物です。日が差すベランダや明るい窓辺に飾ると、ガッシリとした丈夫な木に育ちます。ただ、室内などから外に出されて急に直射日光にさらされると、環境に適応できずに葉焼けする事があります。基本的には直射日光クラスの強光線が大好きな植物です。なるべく陽の入る窓の近くや大きな窓のそばに置くようにしましょう。

■結婚祝いのプレゼントにおすすめ

グズマニア(アナナス)

花言葉：『理想の夫婦』『いつまでも健康で幸せ』『情熱』『あなたは完璧』
グズマニアは、放射状に広がる葉っぱがかわいらしい観葉植物です。春～秋にかけて、色鮮やかな花を株の中心で咲かせます。グズマニアは、花が徐々に色を失っていきながら、株の周りに子株を作ります。この様子から、「理想の夫婦」という花言葉が付けられました。「いつまでも健康で幸せ」は、花の色が長期間あせないことが由来です。「情熱」は、鮮やかな花の色合いにちなんでいます。



育て方

グズマニアは、中～南アメリカに120～130種ほどが自生するパイナップルの仲間です。樹木の上などに着生し、草丈は20～60cmほどに生長します。短い茎から光沢のある細長い葉っぱを放射状に広げます。実際の花は中心にあり、花びらのように見える部分は葉っぱが変化した苞です。花は短命ですが、苞は色あせることなくおよそ3～5ヶ月の長い間楽しむことができますよ。

置き場

基本的にグズマニアは、一年を通して明るい日陰となる場所に置いて育てます。グズマニアを室内で管理するときは、レースカーテンを挟んで微弱の日差しに当ててあげましょう。冬の寒い季節には霜が降りてきます。霜がグズマニアの葉などに当たれば枯れてしまいます。

水やり

生育期の5～10月は、筒状になっている葉っぱの根元に水が溜まっているようにしておきます。ただ、常に同じ水が溜まったままだと腐ってしまうので、筒状の部分に溜まっている水が入れ替わる程度に株の上から水を注ぐようにしてください。11～3月は、筒の底に少し水が溜まる程度にし、多いときは株を逆さにして減らします。乾燥するようであれば、葉っぱや株の周りに霧吹きで水を吹きかけて湿度を保つとよいですよ。

選定と株分け

色あせた花をそのままにしておくと、子株に栄養が行き届かなくなってしまいます。花が枯れはじめたら、茎から切り戻してしまいましょう。花を咲かせた後は、1年ほどで株が弱って枯れてしまいます。そのため、植え替えの必要はありません。このときに株分けをして、新たな株を育てていきます。

フィカス・ウンペラータ

花言葉：『永久の幸せ』『すこやか』『夫婦愛』
大きなハート型の葉っぱが、見ている人に癒やしを与えてくれるウンペラータ。この葉っぱの形から、『永久の幸せ』といったステキな花言葉が付けられました。また、恋愛運を高めてくれる効果があるとされ、風水アイテムとしても人気なんですよ。独特の樹形がお部屋のアクセントになるので、中型サイズをソファやテレビの脇など目立つ場所に置くのがおすすめです。



育て方

生長が早く新しい枝をどんどん伸ばすフィカス・ウンペラータ（通称：ウンペラータ）。ハート型のかわいらしい葉っぱが特徴の観葉植物です。生育環境がよければ一夏で20cm近くも生長するため、**スペースの限られた室内で育てるには定期的に枝を切って見た目を整える剪定（せんてい）をする必要があります。**

置き場

フィカス・ウンペラータは明るい日陰のような場所で育てましょう。室内であればレースのカーテン越しに日光が入ってくる窓辺や、午前中のみ直射日光が入ってくる場所がおすすめです。屋内外問わず風通しが悪いと病害虫が発生する原因になるので、風通しの良い場所で管理しましょう。暑さに強く、寒さにはあまり強くありません。冬場でもリビングなど常に暖かい場所で管理されているとそのまま生長を続けることがあります。

水やり

水やりのタイミングは土の表面が乾いた時です。土の表面が乾いているのを確認したら鉢底から水が流れ出る位たっぷり水やりをしましょう。ただし葉を落として休眠状態に入ったフィカス・ウンペラータは水やりを控え、断水気味に管理して休眠が明けるのを待ちましょう。**葉が広く埃がたまりやすいため水やりと一緒に葉水をすると良いでしょう。**

白い樹液に注意！

ウンペラータはゴムノキの仲間です。ゴムノキは剪定した枝の切り口から白い樹液を出します。この樹液は眼につくと落ちにくく、肌の弱い人が触るとかぶれてしまうことがあるので注意してくださいね。

■結婚祝いのプレゼントにおすすめ

サンスベリア

花言葉：『永久』『不滅』

長い年月を意味する「千歳」という和名から『永久』という花言葉が付けられたサンスベリア。

夫婦で未永く過ごしてほしいというメッセージになるので結婚祝いのプレゼントにピッタリですね。

虎の尾っぽのような見た目から、悪いエネルギーを家から退ける作用があるのもポイントです。

空気清浄効果のある観葉植物として近年人気が高まっています。育て方が簡単なので初めて観葉植物を育てる方にぴったりです。



育て方

サンスベリアの鉢の置き場所を決めたら、定期的にお手入れをして成長をサポートしていきましょう。

観葉植物の中でも乾燥に強く成長が早いので、水や肥料を与える回数は多くありません。

置き場

1日数時間ほど日に当たる場所に置きましょう。できればレース越しの窓辺などがおすすめです。日陰に強い特性を生かしてテレビの横、ダイニングテーブルの上などに置いても構いませんが、たまには窓辺などで日光浴をさせてあげてくださいね。

水やり

春～夏のよく育つ時期は鉢の土が乾いたら、鉢の底から水が流れ出るくらいたっぷりと与えます。

季節によって水やりのペースを変えるのが長く育てるコツです。

サンスベリアは葉っぱに水を貯めるので吸水力は高いのですが、水をあげすぎると土が乾燥しにくくなり、根が腐る可能性があります。特に気温が低い時期は休眠で吸収力が弱いので、**最低気温が10度を下回ったら水やりをストップ**しましょう。

サンスベリア(トラノオ)の育て方に慣れてきたら数を増やしてみよう

サンスベリアが気に入って「他の場所にも置きたいな」と思った方は、数を増やしてみてもいいかもしれません。

株分け（かぶわけ）や葉挿し（はさし）という方法で簡単に増やせますよ。

株分けとは、サンスベリアを切り分けていくつかの苗にする増やし方です。

葉挿しとは、葉っぱを土に挿して根を生やさせ苗として育てる方法です。

シルクジャスミン（ゲッキツ）

花言葉：『純粋な心』

シルクジャスミンは、月夜に甘い柑橘系の香りを漂わせることから「月橘（ゲッキツ）」「オレンジジャスミン」という別名でも知られる観葉植物です。

真っ白な花が集まって咲くその姿から、「純粋な心」という花言葉が付けられました。この花言葉が、結婚式の花嫁の姿と重なりますね。



育て方

シルクジャスミンは、東南アジア、中国、台湾、沖縄諸島の熱帯から亜熱帯に自生するミカン科・ゲッキツ属（ムラヤ属）の常緑性の低木です。6～9月にジャスミンのような白い花を咲かせます。

樹高は10～350cmに生長し、枝をよく伸ばすことから、観葉植物としてだけでなく、庭木や生垣に使われます。

名前にジャスミンとつくものの、実は香料やお茶で有名なジャスミンとは別の科に属する植物です。

置き場

日のよく当たる場所で育てることがポイントです。ただし乾燥は苦手で、日当たりのよい場所は土が乾きやすいので注意してください。

水やり

土の表面が乾いたら、たっぷりと水を与えます。気温が20度以上になると根や枝がどんどん伸びて、たくさん吸水します。土が白くなるまで放っておくと枯れてしまうので、毎日土の状態をチェックすると安心です。室内で育てるときは、1週間に1～2回ほど葉の表裏に水を吹きかけ、乾燥を防ぎましょう。冬は、土の表面が完全に乾いてから水を与えるようにします。

シルクジャスミン(ゲッキツ)はインテリアにおすすめの観葉植物

シルクジャスミンは一年中濃い緑色の葉を茂らせ、初夏には白い花その後真っ赤な実をつけます。季節ごとに色々な表情を楽しめるのが魅力です。日の光が大好きなので、リビングやベランダのインテリアにぜひ加えてみてください。

■送別会、退職祝いにおすすめの花言葉を持つ観葉植物

パキラ

花言葉：『快活』『勝利』

寒さや乾燥に強く、日陰でも元気に育つ生命力が、パキラの魅力です。「快活」という花言葉は、まさにそんなパキラの生命力に溢れた姿を象徴しています。

やさしい緑色の葉っぱが美しく、幹を三つ編みにして仕立てられた株などオシャレな見た目も人気の理由です。

これから新しいステージに旅立つ会社の同僚にプレゼントしてみてください。



育て方

パキラは年間を通して直射日光から避けて育てます。

パキラはあたたかい地域を原産とする樹木で、寒さには弱いところがあります。普段は窓のすぐそばに置きますが、気温が下がってきたら少しお部屋の内側へ鉢を移動しましょう。

窓から外気が伝わると、葉っぱが傷んだり、パキラ自身が弱ったりします。ベランダに出しているなら、鉢はお部屋の中に入れてください。休眠期に入るので水やりを控え、肥料は与えないようにします。

水やり

4～10月のよく育つ時期は、鉢の土が乾いたら水やりをします。成長期を通して部屋で観賞する場合は、土の表面が完全に乾ききってから水を与えるようにします。パキラは幹がスポンジ状になっており多くの水を貯えることが出来るので、乾燥にとっても強い植物です。過度の水遣りは根の発達を阻害し、根腐れを招きますので必ず乾いてから与えるようにしましょう。

冬は、土が乾いて2～3日たってから。乾燥気味にします。水が多すぎると、「根腐れ（ねぐされ）」をおこして枯れます。

パキラの育て方！枝が伸びたら切る？

パキラは生長が早く、どんどん新しい枝を伸ばすので、1～2年に一度、5～7月頃枝を切りそろえます。

決まった切り方はないので、写真などを参考にしながら、自分好みの形に仕立てていきましょう。

内向きで絡み合っている枝、他の枝よりも生長の早い伸びすぎた枝は、生え際から切り落とします。

2～4週間ほどで、新しい芽が出てきますよ。

置き場

南米原産なので日差しに当たった方がよく育ちそうなイメージですが、直射日光に当たると葉っぱが焼けて枯れます。

午前中は日が当たり、午後は日陰になるような場所に飾りましょう。室内ならレースカーテン越しの窓辺、屋外なら日差しよけのあるベランダがおすすめです。あまり日が当たらないと、光を求めて変な方向に枝が伸び、バランスが悪くなるので注意してください。

アンズリウム

花言葉：『印象深い』『旅立ち』

アンズリウムは、ツヤのある花と葉っぱがエキゾチックな見た目の観葉植物です。花言葉の由来にもなった真っ赤な花は、これまでの会社の功績を称える退職祝いの贈り物にピッタリ。

アンズリウムはサトイモ科の観葉植物で、光沢のある鮮やかな色の花が特徴です。花びらのように見えている部分は、サトイモ科の植物に見られる「仏炎苞（ぶつえんぼう）」という苞が大きく変化したものです。実際の花は中心にある尾のように突き出した部分(肉穂花序)に密生しています。



育て方

アンズリウムは南国ムードを演出してくれる赤や白などの花を

5月から10月までの長い間楽しむことができます。

よく花を咲かせるために花色があせてしまったら、花茎を根元から切り取ります。

この花がら摘みを行うことで次の花の生長が促されます。

置き場

アンズリウムは熱帯地方の植物ですが、そのイメージと反して直射日光に弱く葉焼けを起こしてしまうことがあります。戸外の半日陰か、レースのカーテン越しに日光が当たる場所で育てるのが理想です。あまり薄暗い場所で育てると花が咲かなくなるので注意してください。

また、寒さに弱く10度以上の気温がないと越冬できないので暖かい場所で育てるようにしてください。

水やり

アンズリウムは、熱帯の植物なので温度が高く、やや湿気の多い環境を好みます。そのため水切れに注意し土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。トレーに溜まった水は土が乾きにくくなり、根が呼吸出来なくなり根腐れの原因となるので必ず捨ててください。空気中の湿度を高めるために時々、霧吹きでは水を与えると効果的です。

アンズリウムの増やし方！仕立て直しと株分けの時期、方法は？

株が大きくなって草姿が乱れてきたら仕立て直しを行います。この時に子株が育っているようであれば、株分けで増やします。

5月中旬～7月上旬が適期です。親株の地上部に出ている根を、できるだけ多くつけて切り戻し、鉢に挿していきます。

この時、親株の根は葉の付け根が埋まらない程度に浅植えにしましょう。元の株は子株が成長してまた楽しめます。

■送別会、退職祝いにおすすめの花言葉を持つ観葉植物

モンステラ

花言葉：『壮大な計画』『深い関係』

深い切れ込みが入る葉っぱが印象的なモンステラ。

「壮大な計画」という花言葉からは、輝かし未来が想像できます。たっぷりの水を与えていけばどんどん大きくなっていく丈夫さがあるので、観葉植物を育てたことのない方にも安心してプレゼントできますよ。



育て方

モンステラとはサトイモ科モンステラ属で、南米が原産の植物です。一年を通して葉の緑色を保つ「常緑性」という特徴があり、観葉植物として広く親しまれています。

肥料は、土の上に置くだけの固形の緩行性化成肥料を、春から夏は2ヶ月に1回与えます。秋から冬は肥料を控えます。冬季は成長が止まるので肥料を与えてもあまり効果がありません。

水やり

春から秋は鉢の土の表面が乾いたタイミングで、鉢底から水がたくさん出てくるくらい水やりをします。

反対に、冬はあまり水を必要としないので、土の表面が乾いてから2~3日あけて水やりをしましょう。

「乾燥してるな」と思ってからさらに時間をおくくらいが丁度よいです。

置き場

モンステラの置き場所選びには2つのポイントがあります。1つは日光がよく当たること、もう1つは5度以上の気温が維持されていることです。

モンステラは秋から春までは日光のよく当たる場所、夏は日光が直接当たらない場所を好みます。カーテン越しの窓辺や明るい室内で管理するのがおすすめです。光がなくても枯れにくい「耐陰性」も兼ね備えてはいますが、適度に光を当てて育てるのがポイントですよ。

モンステラの気根って何？

茎の途中から生えるひも状のものもは、「気根」とよばれる根の1種で、モンステラの体を支えるために地面まで伸び続けます。本来は木や壁などに張り付くため空気に生える根「気根」なので、不要の場合は付け根から切り落とします。

特に切っても害はでませんが、好きな方は残しておいても大丈夫です。

■ 出産祝いにおすすめの花言葉を持つ観葉植物

ユーカリ

花言葉：『思い出』『記憶』

コアラの食べ物として知られるユーカリ。
ユーカリは、シルバーグリーンのシックな色合いをした特徴的な葉っぱが魅力の観葉植物です。見た目に清潔感があり、女性が好む観葉植物として近年人気が出ています。
花言葉からは、出産して赤ちゃんとの思い出が日に日に増える産後のママを応援する気持ちが感じられます。



育て方

ユーカリの原産地オーストラリアは、気温が5度以下にならない、あたたかく乾燥した地域です。栽培環境も、この自然で育った環境に近づけることが、元気に育つ近道です。
ユーカリは水を吸い上げる力が強く、乾燥した場所で元気に育ちます。砂漠の緑化にも利用されているんですよ。

置き場

ベランダやリビングの窓辺など日当たりのよい場所を用意してあげましょう。
ただし、湿度の高い環境や冷たい風、霜は枯れる原因になるので、梅雨の時期や真冬は置き場所を変えます。窓辺より室内の少し内側に置くのがベストですよ。

水やり

春から秋は鉢の土の表面が乾いたタイミングで、鉢底から水がたくさん出てくるくらい水やりをします。
反対に、冬はあまり水を必要としないので、土の表面が乾いてから2~3日あけて水やりをしましょう。
「乾燥してるな」と思ってからさらに時間をおくくらいが丁度よいです。

ユーカリを楽しもう

ユーカリは、白っぽい緑色の葉がアンティークな印象を与える観葉植物です。もっとその魅力を楽しむなら、切り取った枝をドライフラワーにしてみてください。美しさがさらに際立ち、花瓶に挿したり、リースにしたりして楽しめますよ。

カポック（シェフレラ）

花言葉：『とても真面目』『実直』

どんな環境でも元気に育つカポックの丈夫さは、観葉植物の中でもトップレベル。その強さを表す花言葉が「とても真面目」「実直」です。この花言葉やカポックが育つ姿は、子育てに励むママの姿と重なります。
育てやすいので、手間をかけられない方へのプレゼントに！



育て方

カポック(シェフレラ)は熱帯植物になるので、基本的に暑さには強いですが、耐寒性もある程度はありますが、霜に当たると弱ってしまうので、冬は霜の当たらない暖かい場所で管理すると良いでしょう。

置き場

耐陰性があるので、室内でも大丈夫です。
しかし、日光が当たった方が健康な株になるのでなるべく日光が当たる場所に置いてください。
室内だからと言って直射日光を当ててしまうと葉焼けを起こしてしまうので、レースのカーテン越し程度の日光を当ててください。エアコンなどの風が直接当たると葉が傷んでしまうので、直接当たらない場所に移動してください。

水やり

土の表面が乾燥したら鉢底から水が流れ出る位たっぷり水やりをします。また、カポック(シェフレラ)は観葉植物の中でも耐寒性が高いので冬でも生長が止まっていなければ、生長期と同じように水やりをしてください。
冬場に生長がストップしたら水やりの回数を減らし、土の表面が乾燥してから2~3日経った後に水やりをしてください。

買ったばかりで葉が落ちるのは、順応するため

カポックは環境が変わると、その環境になじむために葉を落とすことがあるようです。
環境に順応するために葉が落ちる時は、数枚程度ですぐにおさまります。幹にハリがあり、茎や葉がピンと持ち上がっていればそれほど心配はいりません。しばらく様子を見ましょう。

